

第7-1号

耕人

『耕人塾』

塾長 木村 民男

平成30年5月19日(土)

第7期 『耕人塾』で目指しているもの

平成24年10月に『耕人塾』がスタートして今年で7年目を迎えます。『耕人塾』の趣旨は、「石巻地域の中・高校生の『人間力』を磨き、地域社会に貢献する人材を育成し、併せて、大学生や市民の学びの場にする」ことです。第7期のテーマは昨年に引き続き「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～」とし、実践事項を「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」にしました。今年度はそれに各自がどんな意識で取り組むかという「+1(プラスワン)」を付け加えました(例えば「笑顔で」「自ら」「積極的に」「楽しく」など)。塾生の考えやアイデアを取り入れ、主体性を大切にした活動を展開したいと考えています。また、今年度は、活動内容を焦点化するため「プロジェクトK」と「プロジェクトI」の2つに集約し、楽しさと達成感のある活動を工夫したいと考えています。

「プロジェクトK(実践活動を含む)」:「K」は耕人塾のKや志のK・行動のKです。今年度は昨年の活動をさらに発展させるために「石巻川開き祭り」、「東松島夏祭り」、「女川みなと祭り」の次の日の早朝にゴミ拾いを行うことにしました。また、川開き祭りでは昨年に引き続き他団体と連携しながら、祭り当日にゴミ拾いを行うことにしています。「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」活動の輪が広がることにより、さらに住みよいまちにしたいと考えています。

「プロジェクトI(宿泊研修を含む)」:「I」は石巻のIであり、愛情のIでもあります。石巻地域を世界に誇れるまちにするためにどんなことをどのようにやっていけばよいかを考えるプロジェクトです。8月4日(土)5日(日)の宿泊研修でじっくり話し合うことにしています。

この他に、「頭と心を鍛えるワークショップ」や日本の伝統文化である「茶道」の体験も行います。塾生の皆さんは、生徒会活動や部活動、学校の勉強等で多忙な時期ですが、自分の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献しようという高い志をもって集まったことに敬意を表します。また、お子様の送迎をしていただく保護者の方々に深く感謝申し上げます。私たち指導者も若い人材を育てるために全力を尽くしたいと決意を新たにしています。『耕人塾』で育った人たちが、3年後、5年後、10年後に石巻地域を牽引する人になってくれることを期待しています。

これまでの活動が認められて、石巻専修大学、宮城県教育委員会、石巻市・東松島市・女川町教育委員会の他、河北新報社、石巻日日新聞、石巻かほく、ラジオ石巻からも後援をいただきました。また、『耕人塾』を支えてくれる組織として運営委員27名、指導委員33名(内学生5名)、協力員40名の他、サポーターが約100名、計約200名の方が物心両面から協力してくれています。今年度のコンセプトは「ワクワクドキドキ」です。新たな挑戦の不安もありますが楽しく充実した活動していきたいと思っています。それぞれの力を思う存分発揮してください。

「志を立つ」(橋本左内「啓発録」から) 幕末の志士である橋本左内が、15歳(満14歳)の時に自分の生き方の指針として記した5か条が「啓発録」です。その中に「志を立つ」があります。左内は「志とは、自分の生き方の決意を固めることである。志を立てるには、聖賢(せいけん)の教えや歴史の書物を読んで、その中から深く心に感じた部分を書き抜いて壁に貼り、いつもそれを眺めて自己を省みて、自分の足らぬところを努力することが大切である。そして、自分が少しずつ前進するのを楽しみとすることである。」と記しています。

「志」とは、自らの意志で自己を成長させ、地域社会に貢献していこうとする決意を固めることです。塾生の皆さんも各自の「志」を立て、今日から新たな自分をつくって行くために歩み出しましょう。皆さんがどのように成長するか楽しみです。